

3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる

3.4. 普代 から 久慈へ 普代川の河口の砂鉄浜の今 「普代浜 & 普代の街」 and 三陸鉄道の車窓



洋野町
大野



Image © 2014 DigitalGlobe
Image Landsat

Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO

2. 三陸沿岸のIron Road Walk 3日目 午前の概要

普代川の河口の砂鉄浜「普代浜」・普代の街 & 三陸鉄道で久慈へ

8月5日早朝 昨日夕刻から夜半にかけて降り続く土砂降りの雨。朝雨がやんで、晴天を期待しましたが、昨夜にもましてきつい雨が降ったり止んだり。

今日は久慈に出て、新幹線で神戸にまで帰らねばならず、時間的余裕がなく、昨夜は地図や資料と首っ引きで 今日行程に頭をひねる。

普代の浜・街も見たいし、また、久慈の駅に立つのも今回の目的の一つ。とにかく黒崎朝7時の村のスクールバスで山を下って 普代の浜に下りないと先が続かない。

久慈は20数年前 たたら製鉄遺跡探訪のCountry Walkを「Iron Road ・和鉄の道」と名付けてライフワークに。きままな風来坊Walkを楽しもうと決めた地であり、また、あまちゃん人気の久慈にも興味津々。

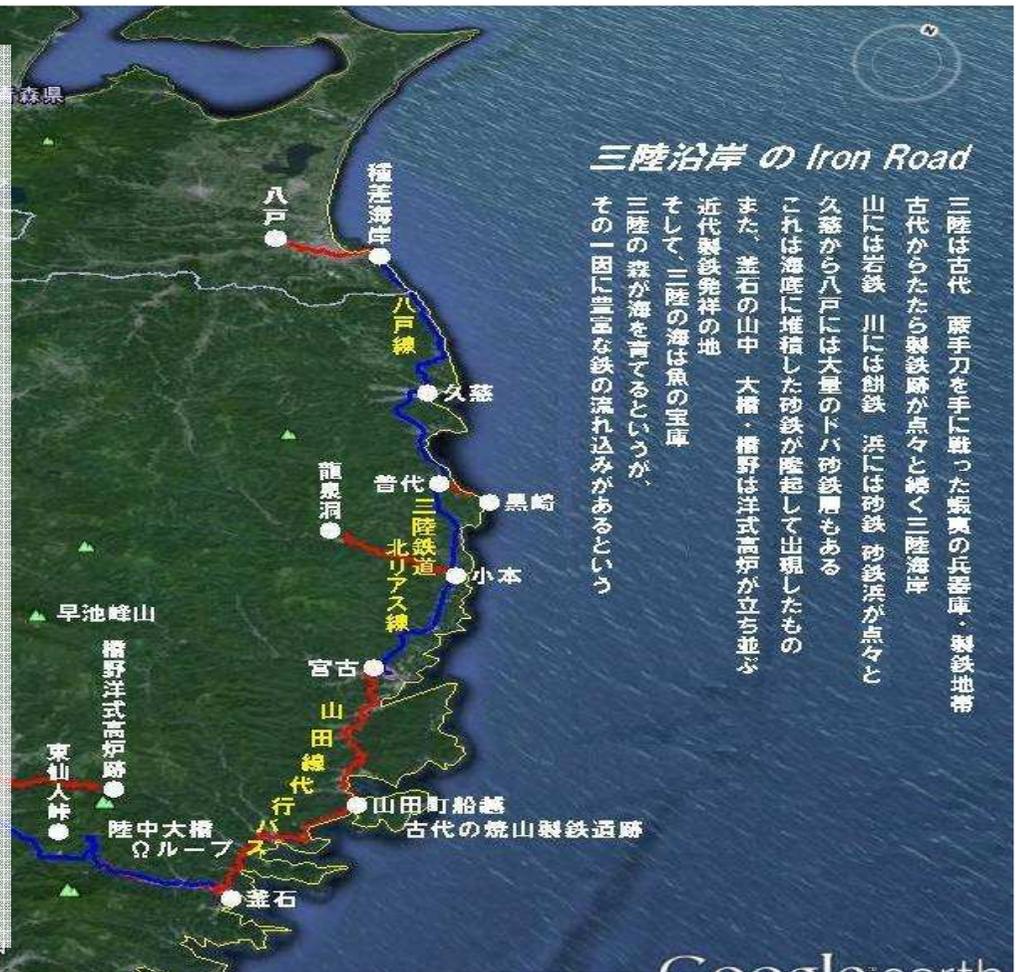
久慈地域は日本有数の砂鉄の宝庫で、南部鉄の鉄生産地でもあり、久慈地域の製鉄関連遺跡にも立ち寄りた。砂鉄を利用した近代量産の直接製鉄がはじめられた鉄の先進地でもある。(川崎製鉄久慈工場)

残念ながら 以前訪れた久慈の「たたら館」はなくなっており、また、砂鉄鉱脈が 続く久慈の三鉄地は沿岸内部で、アクセスの算段ができず。

今回は泣く泣く久慈の製鉄関連遺跡を訪ねるのをあきらめ、以前の資料を含め、書き残していない久慈の製鉄関連遺跡を整理するにとどめる。

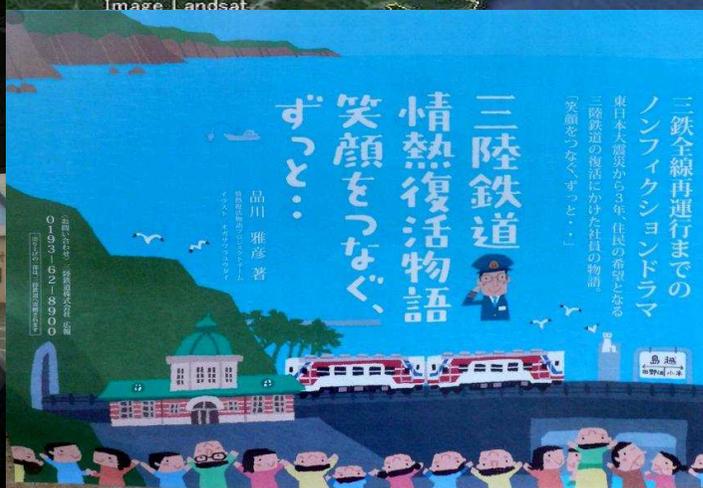
普代の浜・街 を歩いた後、普代から三陸鉄道で久慈に出て、そのまま八戸線乗り継いでこの沿岸の砂鉄浜を車窓から眺めつつ、八戸へ出ることに決めた。ただし、久慈で都合がつけば、久慈からバスで北上山地を抜けて、一戸へ出ることも頭に入れておこうと。

6月9日早朝 土砂降りの雨の中 黒崎の宿舎からバス停へ降りる



三陸沿岸のIron Road

三陸は古代 藤手刀を手に戦った蝦夷の兵器庫・製鉄地帯
 古代からたたら製鉄跡が点々と続く三陸海岸
 山には岩鉄 川には餅鉄 浜には砂鉄 砂鉄浜が点々と
 久慈から八戸には大量の下ハ砂鉄層もある
 これは海底に堆積した砂鉄が隆起して出現したもの
 また、釜石の山中 大橋・楢野は洋式高炉が立ち並び
 近代製鉄発祥の地
 そして、三陸の海は魚の宝庫
 三陸の森が海を育てるというが、
 その一因に豊富な鉄の流れ込みがあるという



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる 34. 普代から久慈へ 普代川河口の砂鉄浜「普代浜 & 普代の街」 and 三陸鉄道の車窓

《三陸沿岸のIron Road 普代》

くろさき荘のある黒崎は太平洋の荒波洗う崖の上に在り、普代駅など集落はその北西 普代川が流れ下る谷筋の河口域の狭い傾斜地。 駅へは黒崎の崖の上から山を下って普代川の河口へ出ねばならない。 眼前に広がる三陸の海は豊かな漁場・海産物の宝庫であり、また、素晴らしい断崖美は多くの人たちを観光に惹きつけている。 この普代周辺を大津波が襲った時、明治の大津波の教訓を生かし、海と集落の間に築かれた高さ15mにも及ぶ太田名部防潮堤並びに普代川河口水門防潮堤により、津波の直撃は防がれたと聞く。

また、この普代川流域もまた、たたら製鉄が盛んだった製鉄地帯。 河口 普代浜には砂鉄が堆積する砂鉄浜。 普代川の奥の谷筋には10 鉄山 田野畑村と合わせると34もの鉄山があったといい、その集散地として普代には鍛冶場(普代浦鍛冶場)があつたという。 - みちのくの砂鉄いまいずこより

普代駅

普代

普代水門

太田名部防潮堤

普代浜

●黒崎バス停

くろさき荘

黒崎灯台

Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO
Image © 2014 TerraMetrics

Google

6.9.早朝 5:30起床

晴天を期待したのですが、昨日にも増しての土砂降り。昨日遅くに今日のスケジュールを組み直し、朝6時45分発である。このくろさき荘にまで入るバスは三陸鉄道の乗り継ぎに連動した8:23発しかなく、普代浜へ降りるとことなど考えると間に合わない。昨日 ドライブウェイまで歩いて登らねばならないが、朝7:00の村内の子供や中高生たちの巡回スクールバスに乗せてもらえることを教えてもらったので、それに乗って山を下る。6時30分の朝食は10分でかけこんで出発である。

20数年前 来た時にはカードしか持っておらず、随分世話になった。

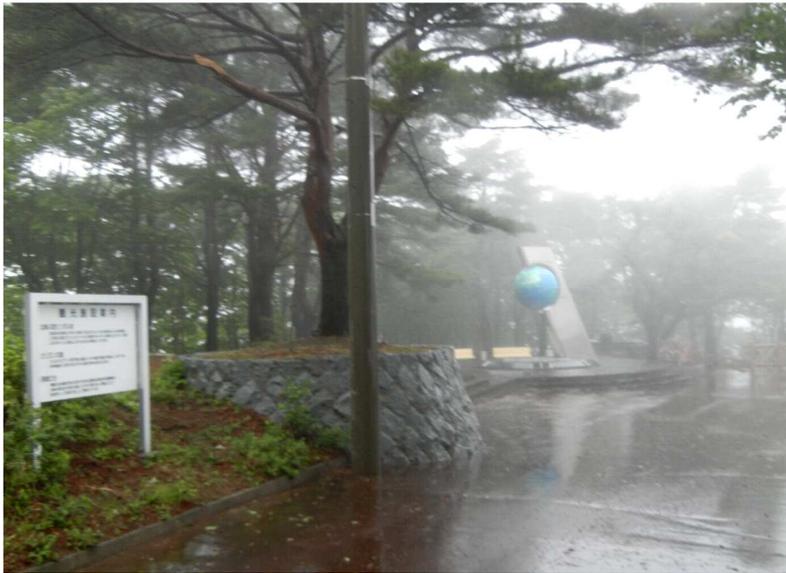
また、その時は快晴で このくろさき荘のすぐ下の断崖でみた北山崎に続く黒崎の断崖の景色の素晴らしさ

「真っ青な空に北山崎に続く黒崎の断崖に打ち寄せる白波の素晴らしい景色と北緯40度地球村のモニュメントそして白い灯台」

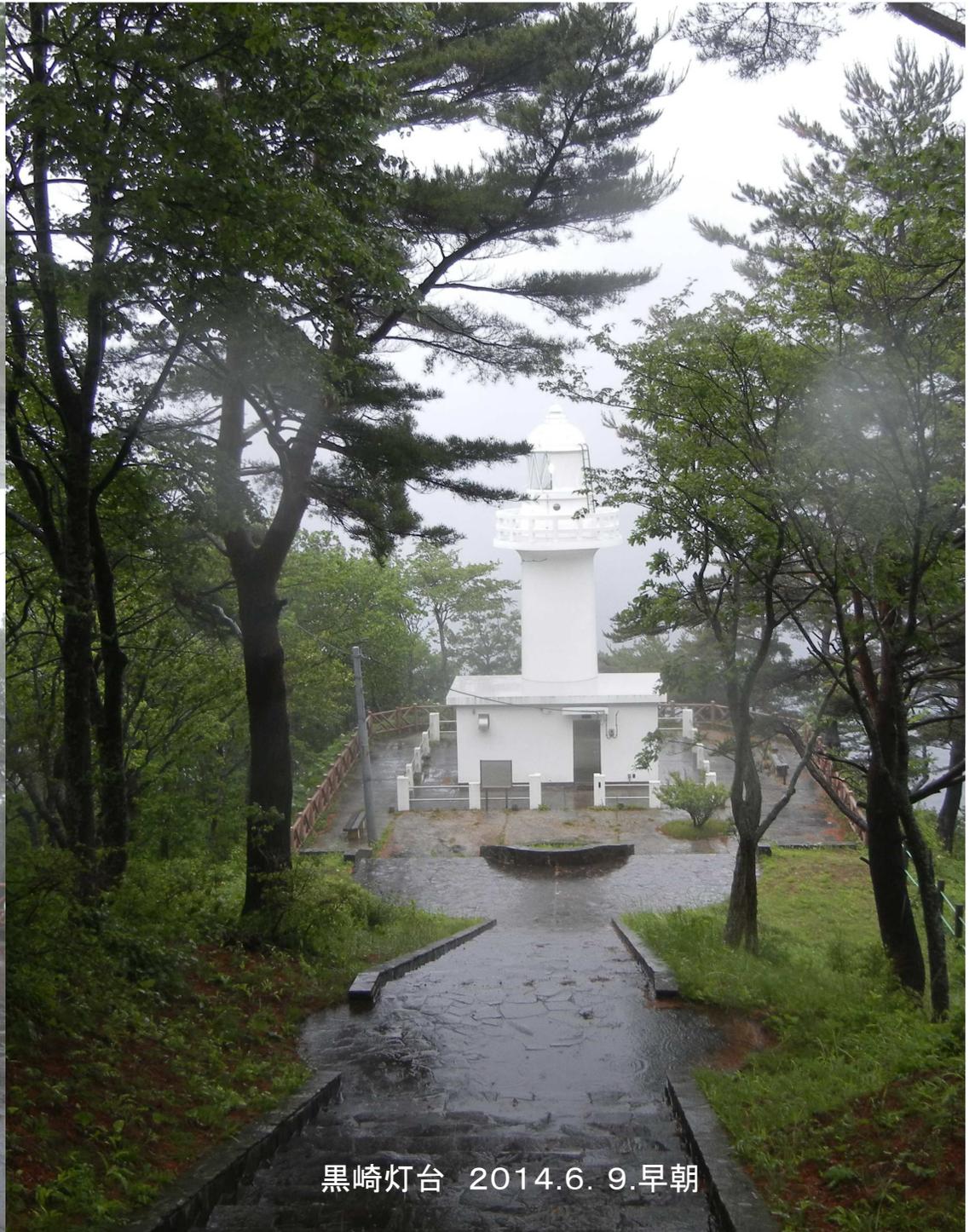
まだ、時間があるので、土砂降りですが、記憶にある灯台と地球儀のモニュメントまでは やっぱり見に行ってきたいと雨の中を出る。



普代村黒崎 国民宿舎 くろさき荘 2014.7.6.9.早朝



北緯40度地球村のモニュメント



黒崎灯台 2014.6.9.早朝



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる 34. 普代から久慈へ 普代川河口の砂鉄浜「普代浜 & 普代の街」 and 三陸鉄道の車窓



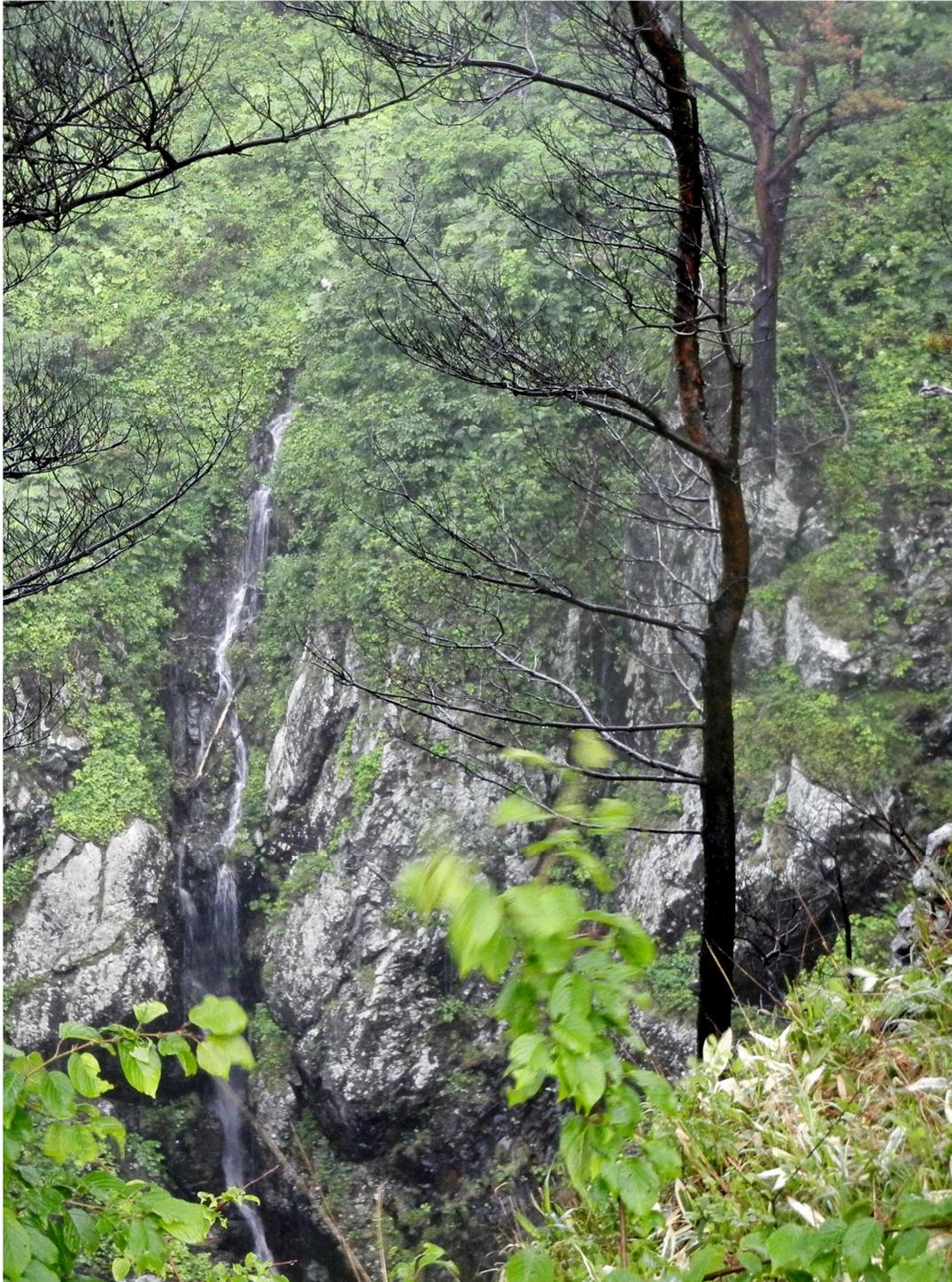
黒崎の展望所からの黒崎断崖の景色 2014.6. 9.早朝



黒崎の展望所からの黒崎断崖の景色 2014.6.9.早朝



黒崎の展望所からの黒崎断崖の景色 2014.6. 9.早朝



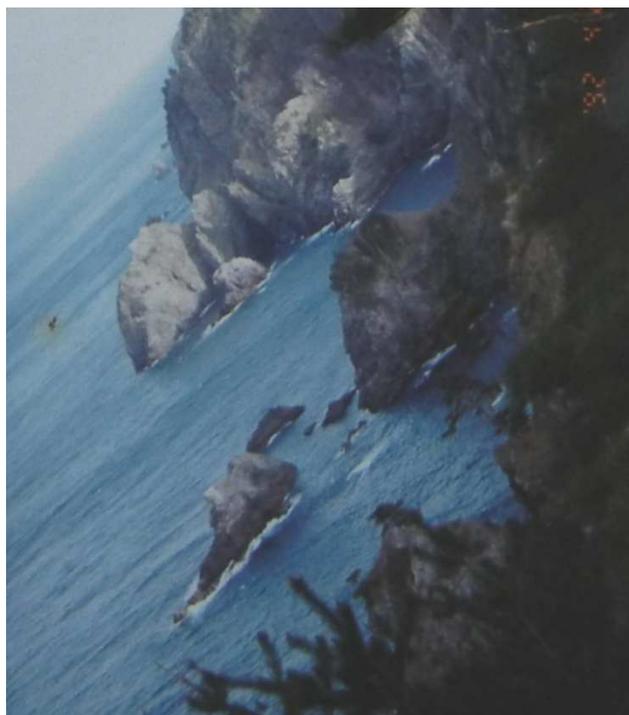
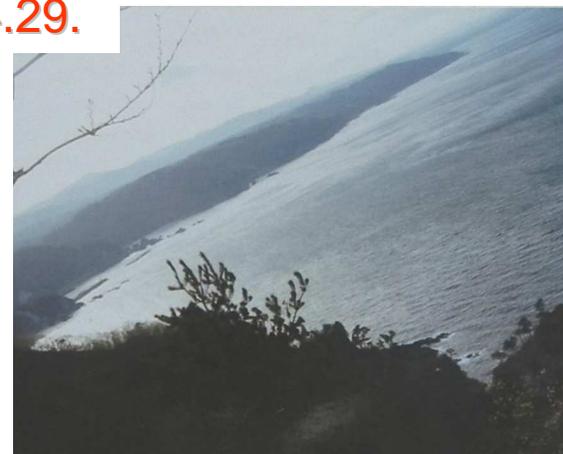
3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる 34. 普代から久慈へ 普代川河口の砂鉄浜「普代浜 & 普代の街」 and 三陸鉄道の車窓

参考 20数年前訪れた普代・龍泉洞 (1) 1996.4.28.& 4.29.



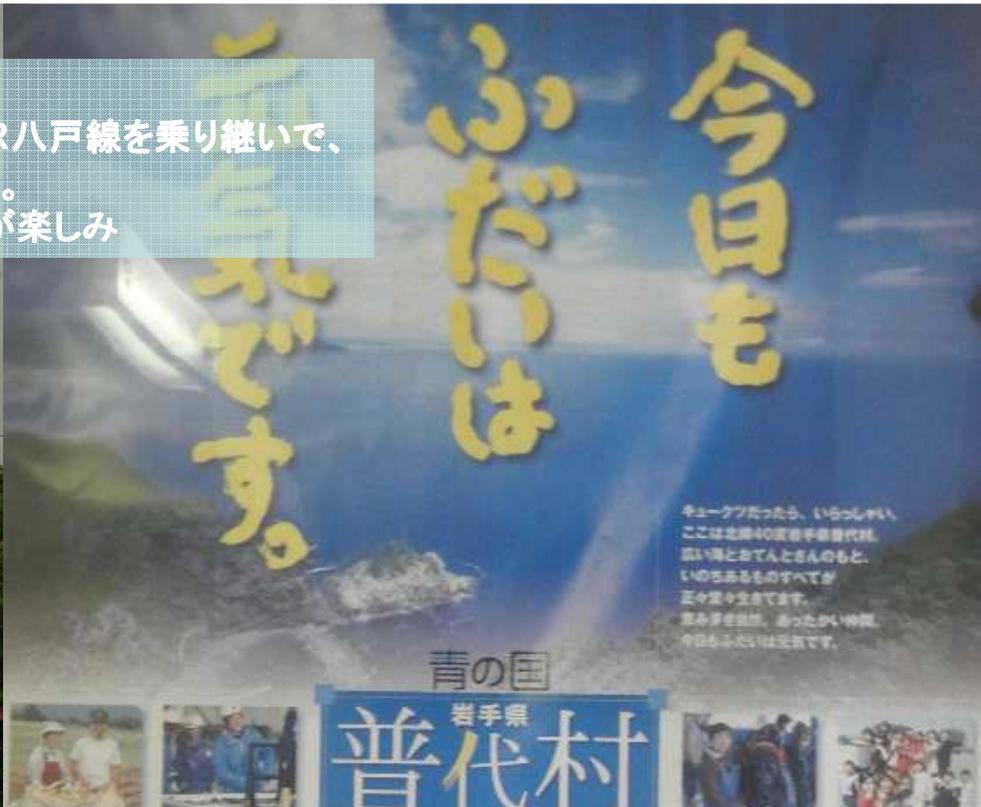
3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる 3.4. 普代から久慈へ 普代川河口の砂鉄浜「普代浜 & 普代の街」 and 三陸鉄道の車窓

参考 20数年前訪れた普代・龍泉洞 (2) 1996.4.28.& 4.29.



普代村 黒崎 1996.4.28.& 4.29.

朝6:45 雨が降りしきる中 くらさき荘を出発
 今日 砂鉄浜の普代浜に出て 三陸鉄道・JR八戸線 を乗り継いで、
 車窓を楽しみながら 久慈から八戸へ出る。
 今日 普代浜の砂鉄と車窓から見る砂鉄浜が楽しみ



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる 34. 普代から久慈へ 普代川河口の砂鉄浜「普代浜 & 普代の街」 and 三陸鉄道の車窓



黒崎のドライブウェイまで 少し登って7時発の村営スクールバスを待つ 2014.6.9.



バスには学校に通う黒崎の集落の子供たちが大勢乗っていました 2014.6.9.

山を下って海岸部にでると普代の漁港。山側には大きな防潮堤。
これが高さ15メートルを超す太田名部防潮堤。
大津波が押し寄せた時、港は大変な被害が出たが、津波から太田名部の集落を守った防潮堤。
また、先の普代川にも巨大な水門が建設されていて、
こちら水門内にある普代の集落を津波から守ったと聞く。

黒崎の山を下って

大津波から普代の街を救った大防潮堤と普代川水門





7:24 このトンネルを抜けると普代川の河口 普代浜入口で バスを止めてもらう。2014.8.9.朝



7:27 普代川の南岸沿い 水門の所でバスを止めてもらう。ラッキーなことに雨も小降りに。
ここから水門の上を歩いて河口の普代浜へ降りる。



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる 34. 普代から久慈へ 普代川河口の砂鉄浜「普代浜 & 普代の街」 and 三陸鉄道の車窓



普代川水門堰堤の上から見る河口 普代浜 2014.6.9.

道路が走る南岸は復興工事中では入れないので、堰堤を渡って南側に出る



普代川水門堰堤 河口側 普代浜 2014.6.9.



河口側堰堤の南側山裾 かつてはあった松林 2014.6.9.
その木がすべて 根に近い部分で引きちぎられ、林が消滅 すごい光景



霧雨に煙る普代川の河口 普代浜 《1》 うっすら堆積した砂鉄の黒い筋が見える 2014.6.9.



霧雨に煙る普代川の河口 普代浜 《2》 うっすら堆積した砂鉄の黒い筋が見える 2014.6.9.



霧雨に煙る普代川の河口 普代浜 《3》 うっすら堆積した砂鉄の黒い筋が見える 2014.6.9.

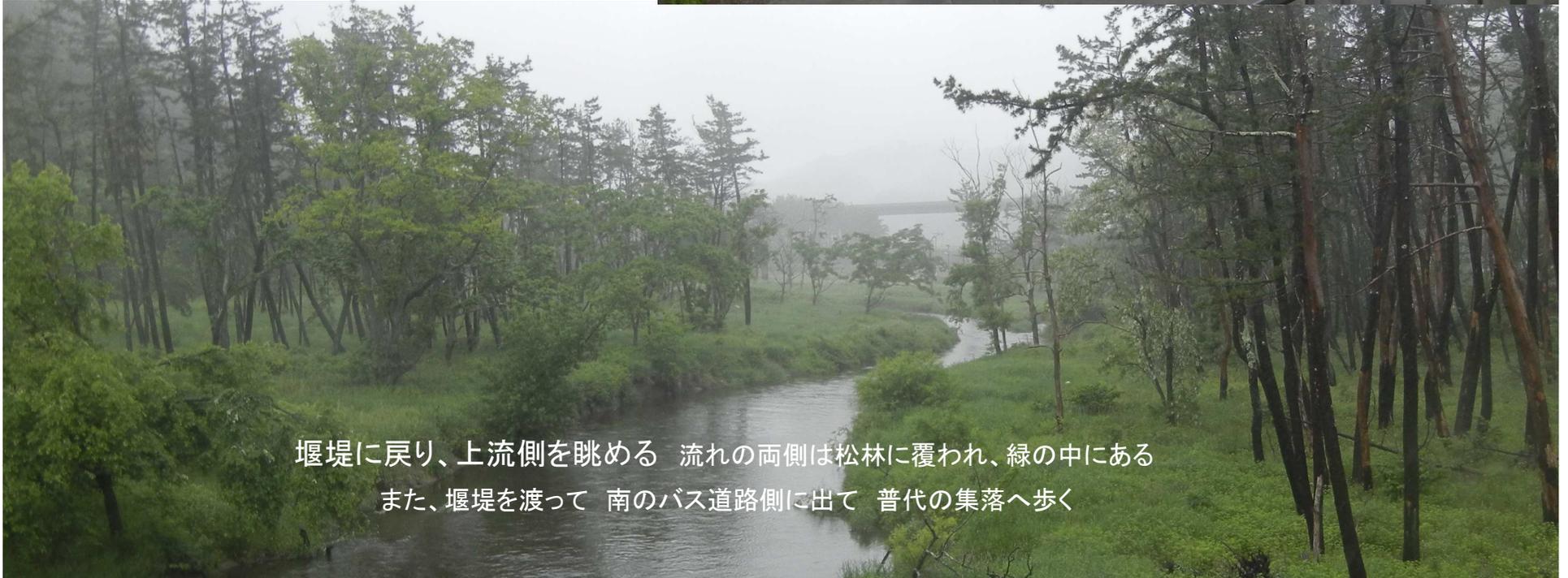




霧雨に煙る普代川の河口 普代浜 《4》 うっすら堆積した砂鉄の黒い筋が見える 2014.6.9.



霧雨に煙る普代川の河口 普代浜 <<5>> うっすら堆積した砂鉄の黒い筋が見える 2014.6.9.



堰堤に戻り、上流側を眺める 流れの両側は松林に覆われ、緑の中にある
また、堰堤を渡って 南のバス道路側に出て 普代の集落へ歩く



ひっきりなしに車が通る普代川南岸沿いのバス道を少し西へ戻って
普代道路の高架橋の所で北へT字クロスする広い道へ普代川の橋を渡って 普代の集落へ
高架橋の奥に三陸鉄道の鉄橋も見えている



普代の集落を守る普代川堤防

8:12. 三陸鉄道の高架橋をくぐったところで 東西に延びる高いコンクリー
堰堤とその堰堤に取り付けられた鉄製の扉に出会う。

一瞬なんで……と。

地図を見て これが普代川の北側の高潮対策堰堤で、川を渡って、歩いて
きたところは普代川の自然堤防の中だったのだとわかる。

ここにも 明治の記憶の対策が施されていたようだ。

扉の向こうに見える建物 扉が開いていたので近づくと海産物の加工工場
だった。





3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる 3.4. 普代から久慈へ 普代川河口の砂鉄浜「普代浜 & 普代の街」 and 三陸鉄道の車窓



普代の街で 元気な声の響きに吸い寄せられて
早朝のスクールバス&昆布の加工場 2014.6.9.



8:20 普代川の土手より 普代の集落を眺める 中央奥が河口 右手川向うが普代の役場で 駅もこちら側にある

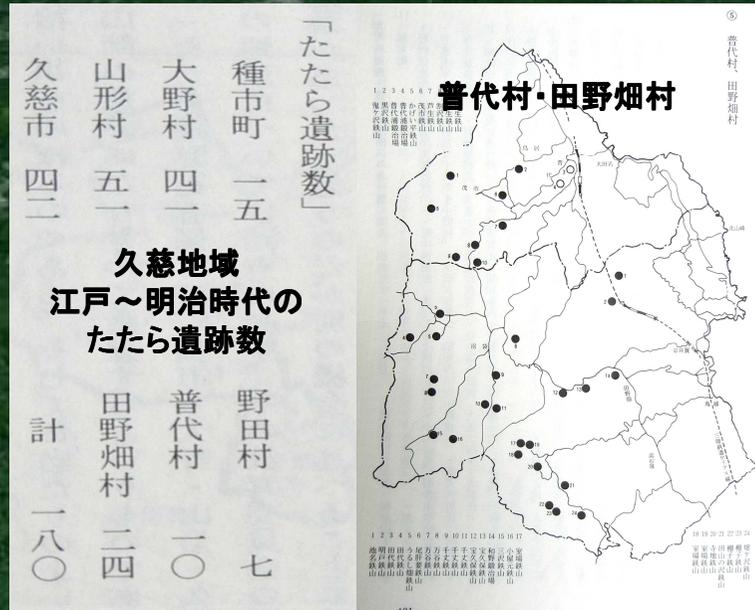


8:25 普代駅到着 ラッキーなことに昨夜来の雨で列車が遅れていて、8:02発久慈行に乗れるとこれだと 雨降りの中 久慈から待たずに八戸線に乗れそうなので、今日は気楽に砂鉄浜を眺めながら八戸へ向かって 種差海岸かどこかへ行って 新幹線で神戸に帰ることに切り替え。



参考 北三陸沿岸のIron Road

普代・田野畑のたたら遺跡 [1]



岩泉町
江川鉄山のほか十数ヶ所の製鉄関連遺跡が確認
砂鉄と製鉄に必要な木炭が豊富にあり、製鉄が盛
んな場所だったことがわかる。



岩泉

宮古駅 ●

田老駅 ●

接待駅 ●

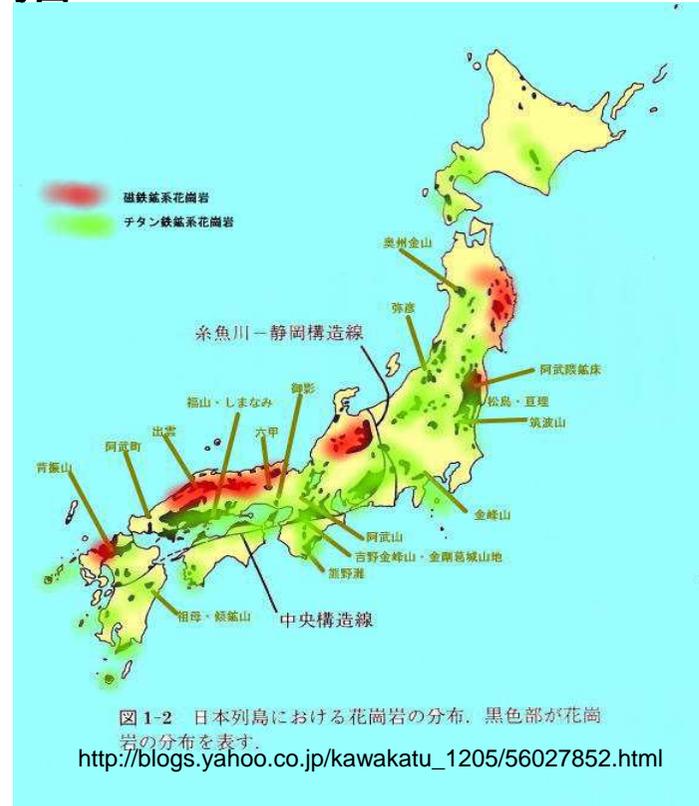
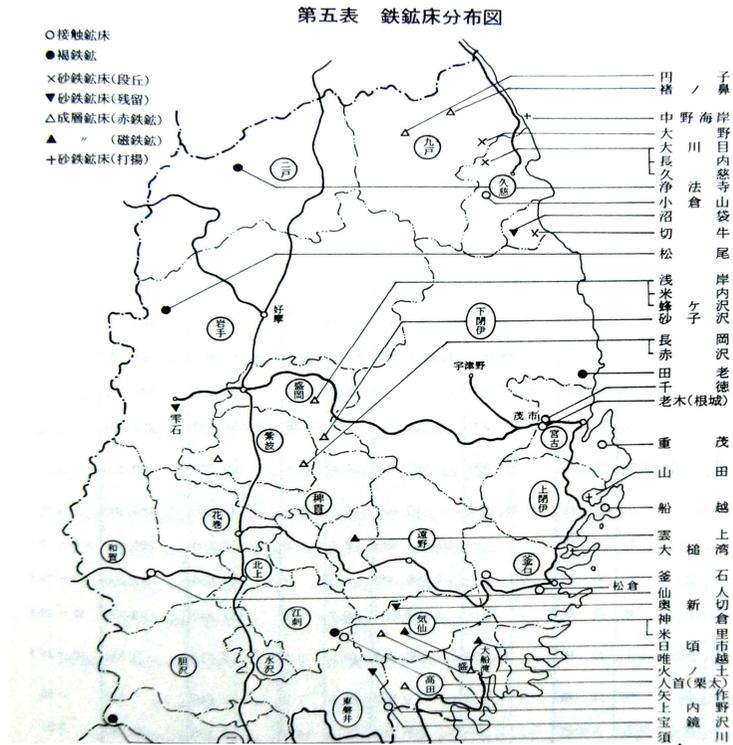
小本駅 ●

島越駅 ●

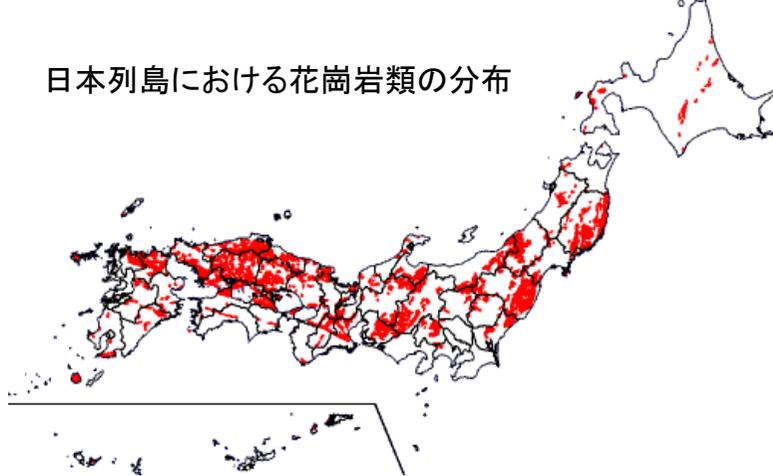
田野畑駅 ●

普代駅 ●

参考 北三陸沿岸のIron Road 普代・田野畑のたたら遺跡 [2]
岩手県の鉄鉱床分布 と その参考図

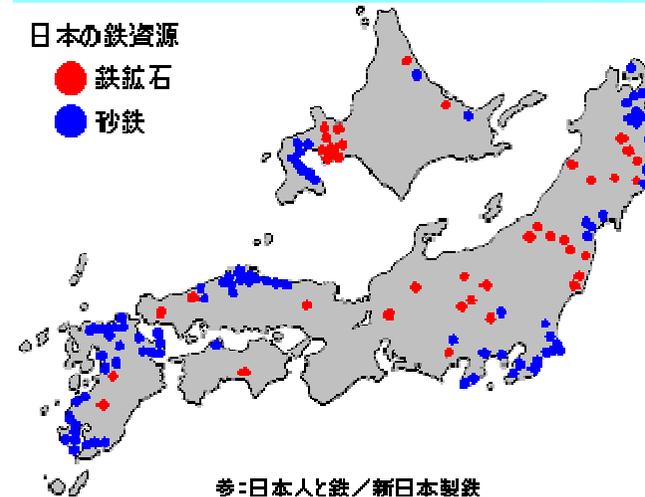


日本列島における花崗岩類の分布



日本の鉄資源

- 鉄鉱石
- 砂鉄



券：日本人と鉄／新日本製鉄



8:42 待つこと15分 30分遅れの久慈行が入ってきました



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる 34. 普代から久慈へ 普代川河口の砂鉄浜「普代浜 & 普代の街」 and 三陸鉄道の車窓



8:43 霧雨の中 普代駅を出発
先ほど歩いてきた普代の街を眺めながら、久慈へ向かってトンネルへ 2014.6.9.





8:54 普代村 堀内の海岸



野田村下安家川を渡る沿岸道路の向こうは雄大な太平洋ですが、霧でよく見えず



9:01 野田玉川駅 霧の中



9:11 陸中野田駅 列車行き違い待ち10分以上 ここまで来ると久慈はもうすぐ



9:35久慈駅着

9時47分八戸行の列車に間に合うので、今回は残念ながら久慈Walkをあきらめ、そのまま八戸へ向かうことにしました。

次の列車は12:53で、約2時間では 旧たたら館資料の展示があると聞く民俗資料館や大野や侍浜など 霧雨の中 行くにはちょっとアクセスが心もとない。



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる 34. 普代から久慈へ 普代川河口の砂鉄浜「普代浜 & 普代の街」 and 三陸鉄道の車窓

1992年4月に訪れた久慈
「アイアンロード」・「和鉄の道・Iron Road」の言葉が浮かんだ地に
やっとまた 立つことができました



三陸鉄道・JR久慈駅が並び立つ駅前 インターネットより採取





1992年に歩いた北三陸沿岸のIron Rod・和鉄の道

北三陸沿岸のIron Rod